

福祉ボランティア大会 7グループが交流を図る

第3回福祉ボランティア大会は、11月18日、カレッジ学習室で開催され、約50人が参加しました。

〈わ〉の福祉部会の活動を知ってもらい、各サークルの交流を図るとともに、現役学生にも参加を呼びかけ、ボランティアの輪を広げることが狙いです。

1部はパワーポイントを使って活動紹介。友愛訪問グループは、明生園もみじ会・一寸奉仕・クレヨン・あんだんての4つで、障害者施設、福祉施設、高齢者施設を訪問、ホール遊び、大道芸、手品、合唱などを披露し、施設利用者とともに楽しんでいます。さおり・たまもは、たまも園製のさおり織を使って作った袋物や小物を売り、たまも園を支援。真愛ホーム介助は中央区の特別老人ホームで、入浴介助、花見、初詣の付き添いなどを行っています。エンジェル支援の会は手作り工房で手芸品を



製作、販売し、収益金の一部をエンジェル基金として恵まれない子どもに贈る活動をしています。

2部は友愛訪問グループのパフォーマンス。明生園もみじ会は歌唱指導を行いました。代表の宮城智子さんは84歳。参加者に配った歌詞カードは、パソコンで打ち出した。キーボードの伴奏も達者なもの。「1年があっという間に過ぎる」といいます。一寸奉仕は南京玉すだれを披露。増金スミ子さんは「笑っていただくことが大切」だそうです。クレヨン（写真）は手品、小話、合唱が得意技。「私の名前はミステリー。ミスが多いから」などと笑いを誘っていました。あんだんては、紙芝居や手紙朗読を披露。手紙では「食べ物をごぼしても、下着を濡らしても励ましの眼差しをいただきたい」とお年寄りの心情をせつせつと語りました。

3部は交流会。ある参加者は「現役学生はチラホラしかいなかった。昔に比べ、ボランティアへの意欲が後退しているようだ」、「これまでのチラシを配るだけでは来年も学生は来ない。ボランティア出前授業をやっていただけたらどうか」、「ボランティアは続けることが何よりも大事。先輩から後輩へ伝えなければ」などの声が行き交い、和やかに締めくくりました。（広報・永野知己）

好評だった学習支援講演会



「発達障害ってどんなこと？」と題した講演会が11月18日、学習支援活動の一環としてカレッジ学習室で開催され、60人が受講しました。講師は、神戸市発達障害ピアカウンセラー（精神保健福祉士）の笹森理絵氏。

笹森氏自身がアスペルガー症候群、学習障害、注意欠如多動性障害者であり、発達障害の3人の息子の母親としての、「視点の違い」「状況判断が不得手」「算数や作文は苦手」など、日常生活での事例をあげて詳しく解説。その上で発達障害者をどのように考え、どのように関わっていけばよいのかを明るく、生き生きとした様子で自らの経験を語りました。障害児の園外散歩付き添いをしている受講者は、「具体的でわかりやすい貴重な話でした。これからの活動に多いに役に立つ」と話していました。=写真④は笹森理恵氏

（広報・岡本紘一）

ロードレースにスタッフ参加

第11回北区ロードレース大会が12月21日、しあわせの村運動広場で開催され、北区会（9人）・本部（1人）が大会スタッフとして参加しました。大会は小中高生ら1350人がエントリー、学年別や親子ペアのレースが生まれ、コースとなった中央緑道は家族・仲間の声援が飛び交って寒さも吹っ飛ばす熱気に包まれました。〈わ〉のスタッフは、レース関係者と共に7時30分に集合。受付業務のほか、走路監視、クリーンキーパーなどで活躍しました。参加者は佐伯義昭・土井昭政・山口俊雄・野見嘉昭・南形徹・芦田義和・木田育義・田路義弘・北村洋・四方久幸の皆さんでした。

KSC男声合唱団 春に演奏会

3月13日（金）に、神戸文化ホール（大ホール）で、第5回演奏会を開催。「水のいのち」、「学生王子」、「君といつまでも」など十数曲を披露します。入場整理券は、TEL（090-7107-2836）FAX（078-643-3462）で、藤本誠代表までお申し込みください。